
「悪魔な天使」

AKIRA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「悪魔な天使」

【Nコード】

N1142A

【作者名】

AKIRA

【あらすじ】

ふと、迷いこんだ場所で、不思議な生き物と出会い、人間の心の善悪を痛感させられる出来事と遭遇する、ちょっと不思議な物語。テーマは『心』。

「吹き抜ける風」「雲のない青空」「一面の花畑」僕は今小高い丘の上に立ち、この三つを感じている。

「よく来た、よく来た、さあ、丘を下り、あの綺麗な花畑へ行こう」耳元で囁く声がある。

その声に導かれるように、僕は、花畑へと歩んで行く。
歩き始めてすぐに、また囁きが聞こえて来た。

「あの花畑、悪い心の持ち主が、一歩足を踏み入れると、たちまちあの綺麗な花が一斉に枯れてしまう、あの場所は、心を写すとされる場所」

その声に戸惑うように、僕の足がピタリと止まる。

「悪い心・・・」静かに呟き、下を見つめたのち、ゆっくりと目を閉じる。

生まれてから今まで僕はいくつの悪い事をしてきたのだろうか？
その事により、もしかしたら、僕の心は悪へと変貌してしまっているのかもしれないと思った。

「さあ早く、あの場所へ」背中を押すように声が聞こえる。
一歩を踏み出す勇気のないまま、気が付くと僕は、後へと駆け出してしまっていた。

後へと駆け出す最中、その者の姿が目に見え込んで来た。

僕に囁いて来た者の姿、背中には羽根があり、体全体金色に輝く直径10cm程の小さな天使であった。しかし顔は別である。

顔は黒く目は釣りあがり、悪魔の姿である。先程とは、口調が変わり悪魔な天使はこう言った。

「ちっ、せっかく花畑へと誘い込み、失望の概念を心に植え付けようとしたものを、花畑に入って花が枯れると、俺は完全に悪魔になれる、もし仮に枯れることない場合は、俺は天使になることが出来るがな、まあ人間は汚い生き物だから、まず天使にはなれないと思うが・・・、わしが天使になるか悪魔になるかは、おまえの心次第、お主、心を試してみる勇氣はあるか？」

にやつきながら呟く。

「半分天使で、半分悪魔、まるで人間の心のようにだ、人間の心にも善と悪があるように、天使になるか悪魔になるか、僕の心にかかっているというならば、今一度、勇氣を出して、心を試してみよう」

そう悪魔な天使に呟いて、僕は花畑へと歩んで行き、一步を花畑へと踏み入れた。

その瞬間、鳴り響くベルの音で目が覚め、全てが夢だと気が付いた。ぼんやりとした頭で、ふと思った、あの悪魔な天使は、天使になったのか？それとも悪魔になったのか？

不思議な夢の結末は分からないが、僕は、あの悪魔な天使が、天使になれたと思いたい。

そして悪魔な天使にこう言いたい。

「人間も捨てたもんじゃないだろう」って。

（後書き）

読んでくださり有難うございます。

書きためた、たくさんの物語を、随時投稿していきますので、ぜひともまた読んでください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1142a/>

「悪魔な天使」

2010年10月10日01時08分発行